



朝は雨が降っていなくても子ども達が外に遊びに行く頃には雨が降って来たり・・・「長久保公園行きたいな」「お散歩いつ行けるの？」と外を眺めては「雨だねえ、傘さしてるねえ」と残念そうな子ども達。けれど、ごっこ遊びや室内遊びをじっくりするにはいい機会です。年中さんを中心に積み木コーナーでタワーを作ると年少さんも「すごい、作りたい」と目を輝かせ、一緒に作って遊ぶ姿が見られるようになりました。ごっこ遊びでも年中さんがアイデアを出して、完成すると年少さんを招待して遊んでいます。今月は再現遊びに付いて紹介したいと思います。

再現遊び ～魚で遊びたい～

「魚で何か作りたい」と言う子の一言からごっこ遊びが始まりました。魚が大好きな子が図鑑で魚の名前を言っていると、「折り紙で作れないかな？タコ作れるかな？」とアイデアが出てきました。そばで聞いていた子も「何作るの？一緒にやりたい」と盛り上がり、らいおん組から折り紙の本を借りてきて、本とにらめっこ。「難しいな、やっぱ違うの作ろうかな」とあきらめそうになりながらも、一生懸命折り、タコとサメ・トビウオが沢山出来ました。魚が出来上がると「お客さん呼んでプレゼントしたい」と子ども達。年中さん同士で話し合い、受付係・案内係・プレゼントを渡す係に分かれて遊び、年少さんがお客さんになって招待をしました。

ごっこ遊びが始まった当初は係が急にいなくなったり、緊張からか年少さんの名前を言い忘れてしまったこともありました。何度かごっこ遊びをしていくことで、「次の方どうぞ」「こっちに次来てね」と自分で今どうすればいいのか考えながら年少さんに話しかけ、役割交代も自分達でしていました。

ごっこ遊びを通して、年中さんだけではなく年少さんも皆で遊ぶことの楽しさを味わうことができ、次につながる経験となったと思います。

ごっこ遊びをするには、自分でイメージした事を他児に伝えること・他児にも考えがあり友達の意見も取り入れてイメージを共有すること・お客さんにどのように伝えればいいのかなど、たくさん考えて一緒に作り上げていくことが大切です。沢山のごっこ遊びを通して、いろいろな経験を積んでいってほしいと思っています。

さっそく年中さんから次のアイデアが出てきています。画用紙を切ってお寿司屋さんごっこが始まっています。「ごはん友達が全部使っちゃって、お寿司握れないよ」と泣き出す子はいましたが、少しずつ大人が間に入らなくても楽しめるようになってきました。「ぞう組さんを招待したいね」と張り切っている子ども達です。

